

平成25年度採択プログラム 事後評価調査

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	滋賀医科大学	整理番号	U03
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) しおた こうへい 氏名・職名 塩田 浩平(学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) おがさわら かずまさ 氏名・職名 小笠原 一誠(副学長(教育・研究等担当理事))(平成30年4月1日 交替)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) みうら かつゆき 氏名・職名 三浦 克之(大学院医学系研究科医学専攻教授)		
4. 類型	U <オンリーワン型>		
5.	プログラム名称	アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト	
	英語名称	Leading graduate program for reducing the burden of non-communicable disease (NCD) in the Asian Pacific region	
	副題	アジア太平洋州におけるNCD対策を牽引するグローバルリーダーの養成	
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(医学)		
7. 主要分科	(①) (②) (③) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	社会医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学、情報学基礎、健康・スポーツ科学、ゲノム科学		
8. 主要細目	(① 疫学・予防医学) (② 衛生学・公衆衛生学) (③ 内科学一般(含心身医学)) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	外科学一般、統計科学、応用健康科学、ゲノム医科学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	医学系研究科医学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

14. プログラム担当者の構成 計 39 名					
外国人の人数	1 人	[2.6 %]	女性の人数	6 人	[15.4 %]
プログラム実施大学に属する者の割合 [71.8 %]					
プログラム実施大学に属する者			28 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			24 人	そのうち、大学等以外に属する者	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成31年度における役割)
(プログラム責任者)					
小笠原 一誠 (H30. 4.1追加)	オガサハラ カズマサ		副学長(教育・研究等担当理事)	病理学 医学博士	総括責任者
(プログラムコーディネーター)					
三浦 克之	ミウラ カツユキ		大学院医学系研究科・医学専攻・ 教授	循環器疾患疫学公 衆衛生学 博士(医学)	企画・立案・コーディネート
門田 文	カドタ アヤ		大学院医学系研究科・医学専攻・准教 授	内科学・循環器疫学 博士(医学)	NCD疫学クラスタにおける講義(糖尿病)の 計画・準備・実施
大野 聖子	オオノ セイコ		国立循環器病研究センター 分子生物学部長	循環器内科学 博士(医学)	NCD疫学クラスタにおける講義(循環器疾 患・神経疾患疫学)の計画・準備・実施
室寺 義仁	ムロジ ヨシヒト		大学院医学系研究科・医学専攻・ 教授	インド仏教学 博士(学術)	国際交流クラスタにおける演習の計画・準備・実施、少人数 ワークショップ、Presentation and Debatesの計画・準備・実 施
相浦 玲子	アイウラ レイコ		大学院医学系研究科・医学専攻・ 教授	英語・英文学、異文 化コミュニケーション 文学修士	国際交流クラスタにおける講義・実習、少人数ワークショッ プ、Presentation and Debatesの計画・準備・実施
等 誠司	ヒトシ セイジ		大学院医学系研究科・医学専攻・ 教授	生理学 博士(医学)	海外技術支援クラスタにおける講義(NCD基礎医学)の計 画・準備・実施
扇田 久和	オウギタ ヒサカズ		大学院医学系研究科・医学専攻・ 教授	生化学 博士(医学)	海外技術支援クラスタにおける講義 (NCD基礎医学)の計画・準備・実施
西 英一郎	ニシ エイイチロウ		大学院医学系研究科・医学専攻・ 教授	薬理学 博士(医学)	医学統計クラスタ及び海外技術移転支援クラスタにおける 講義臨床試験概論及び基礎医学概論)の計画・準備・実施
中川 義久(H31.4.1追加)	ナカガワ ヨシヒサ		大学院医学系研究科・医学専攻・ 教授	循環器内科学 医学博士	NCD臨床クラスタにおける講義(循環器疾 患)の計画・準備・実施
安藤 朗	アンドウ アキラ		大学院医学系研究科・医学専攻・ 教授	粘膜免疫学 博士(医学)	NCD臨床クラスタにおける講義(がん)の計 画・準備・実施
前川 聡	マエガワ ヒロシ		大学院医学系研究科・医学専攻・ 教授	内分泌代謝学 医学博士	NCD臨床クラスタにおける講義(糖尿病)の 計画・準備・実施
谷 眞至	タニ マサジ		大学院医学系研究科・医学専攻・ 教授	消化器外科学 博士(医学)	NCD臨床クラスタにおける講義(がん)の計 画・準備・実施
鈴木 友彰 (H31. 4. 1追加)	スズキ トモアキ		大学院医学系研究科・医学専攻 教授	成人心臓血管 外科全般 博士(医学)	アジアフィールドワーク、海外技術支援クラスタにおけ る講義(外科分野における技術支援)の計画・準備・実 施
野崎 和彦	ノザキ カズヒコ		大学院医学系研究科・医学専攻・ 教授	脳神経外科学 医学博士	NCD臨床クラスタにおける講義(脳血管疾 患)の計画・準備・実施
大田 信一 (H31. 4. 1追加)	オオタ シンイチ		大学院医学系研究科・医学専攻 講師	IVR、腹部画 像診断 博士(医学)	海外技術支援クラスタにおける講義 (MRI画像診断学)の計画・準備・実施
醍醐 弥太郎	ダイゴ ヤタロウ		大学院医学系研究科・医学専攻・ 教授	腫瘍学 博士(医学)	NCD疫学クラスタ及びNCD臨床クラスタにおける講義(が ん・呼吸器疾患疫学候及びがん・呼吸器疾患臨床総論)の 計画・準備・実施
杉本 喜久 (H31. 4. 1追加)	スギモト ヨシヒサ		大学院医学系研究科・医学専攻 准教授	医用電子工学 医学博士	海外技術支援クラスタにおける講義(医 療情報)の計画・準備・実施
久津見 弘	クツミ ヒロム		大学院医学系研究科・医学専攻・ 教授	消化器内科学・臨床 試験 博士(医学)	医学統計クラスタにおける講義(臨床試験概論)の計画・準 備・実施

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成31年度における役割)
遠山 育夫	トオヤマ イクオ		大学院医学系研究科・医学専攻・教授	神経科学 医学博士	NCD疫学クラスタ及びNCD臨床クラスタにおける講義(認知症)の計画・準備・実施
宮松 直美	ミヤマツ ナオミ		大学院医学系研究科・看護学専攻・教授	成人保健学・疫学 博士(保健学)	医学統計クラスタにおける講義(臨床看護・コメディカル)の計画・準備・実施、海外技術支援クラスタにおける講義の計画・準備・実施
伊藤 美樹子	イトウ ミキコ		大学院医学系研究科・看護学専攻・教授	公衆衛生看護学 博士(保健学)	公衆衛生クラスタにおける講義・実習(公衆衛生看護)、短期研修の計画・準備・実施
藤吉 朗	フジヨシ アキラ		和歌山県立医科大学医学部教授	臨床疫学・予防医学 博士(医学)	医学統計クラスタ及び公衆衛生クラスタにおける講義(循環器疫学・国際共同研究)の計画・準備・実施、アジアフィールドワークの計画・準備・実施
田中 佐智子	タナカ サチコ		大学院医学系研究科・医学専攻・准教授	医療統計学 博士(保健学)	医学統計クラスタにおける講義の計画・準備・実施
中野 恭幸	ナカノ ヤスタカ		大学院医学系研究科・医学専攻・教授	呼吸器疾患 (特にCOPD) 博士(医学)	NCD臨床クラスタにおける講義(COPD)の計画・準備・実施
荒木 信一	アラキ シンイチ		大学院医学系研究科・医学専攻・准教授	腎臓内科学 博士(医学)	NCD臨床クラスタにおける講義(CKD)の計画・準備・実施
椎野 顕彦	シイノ アキヒコ		大学院医学系研究科・医学専攻・准教授	脳神経外科学 博士(医学)	NCD疫学クラスタ及びNCD畜畜クラスタにおける講義(神経疾患臨床総論(認知症))の計画・準備・実施
関川 暁	セキカワ アキラ		大学院医学系研究科・医学専攻・客員准教授(ピッツバーグ大学准教授)	循環器疾患疫学 博士(医学)・ 博士(学術)	NCD疫学クラスタにおける講義(糖尿病)、海外研究機関短期研修の計画・準備・実施
有馬 久富	アリマ ヒサトミ		福岡大学医学部・教授	循環器疾患疫学 博士(学術)	NCD疫学クラスタ及び医学統計クラスタにおける講義(循環器疫学総論・臨床試験概論)海外研究機関短期研修の計画・準備・実施
Elliott, Paul	エリオット ポール		インペリアル・カレッジ・ロンドン・教授	循環器疾患疫学 博士(学術)	医学統計クラスタにおける講義(国際共同研究)の計画・準備・実施、海外研究機関短期研修の計画・準備・実施
角野 文彦	カクノ フミヒコ		滋賀県健康福祉部・次長	公衆衛生学 修士(公衆衛生学)	公衆衛生クラスタにおける講義・実習(国際保健)、短期研修の計画・準備・実施
西 信雄	ニシ ノブオ		国立健康・栄養研究所 国際産学連携センター長	社会疫学 博士(医学)	NCD疫学クラスタにおける講義(健康格差、社会疫学)、短期研修の計画・準備・実施
松尾 恵太郎	マツオ ケイタロウ		愛知県がんセンター研究所 遺伝子医療研究部・部長	がん疫学 博士(医学)	NCD疫学クラスタにおける講義(社会疫学総論)の計画・準備・実施
松下 邦洋	マツシタ クニヒロ		ジョンズ・ホプキンス大学 准教授	腎臓疫学・循環器疫学・国際共同研究 博士(医学)	NCD疫学クラスタにおける(CKD疫学)の計画・準備・実施
中嶋 宏	ナカジマ ヒロシ		オムロン(株)技術・知財本部 技術専門職	情報工学(ソフトウェア・データ解析)	健康関連産業研修における実習(産学連携)、企業インターン研修の計画・準備・実施
貝瀬 俊彦	カイセ トシヒコ		グラクソ・スミスクライン(株)開発本部 ヘルスアウトカムズ部長	循環器・代謝部門の 臨床開発 博士(医学)	健康関連産業研修における実習(産学連携)、企業インターン研修の計画・準備・実施
村上 節 (H29.11.1追加)	ムラカミ タカシ		大学院医学系研究科・医学専攻 教授	産科学婦人科学 博士(医学)	NCD臨床クラスタにおける講義(がん・呼吸器疾患臨床総論(婦人科疾患の臨床))の計画・準備・実施
漆谷 真 (H30.4.1追加)	ウシタニ マコト		大学院医学系研究科・医学専攻 教授	神経内科学 医学博士	NCD臨床クラスタにおける講義(循環器疾患・神経疾患臨床総論(Neuroscience in Neurology Clinics))の計画・準備・実施
縣 保年 (H31.4.1追加)	アガタ ヤストシ		大学院医学系研究科・医学専攻 教授	分子生物学、 免疫学 博士(医学)	大学院教育部門長としてプログラム全体の管理

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数

本プログラムの過去のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成31年度は提出日現在))

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (2019) *(今後の募集予定: 有・無)	
プログラム募集定員数	-	9	9	9	9	9	9	
① 応募 学生 数	-	5	7	9	8	9	3	
	うち留学生数	-	5	4	4	6	8	2
	うち自大学出身者数	-	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)
	うち他大学出身者数	-	5 (5)	6 (4)	8 (4)	8 (6)	8 (8)	3 (2)
	うち社会人学生数	-	0 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)
	うち女性数	-	2 (2)	2 (1)	3 (0)	3 (3)	6 (5)	2 (1)
② 合格 者数	-	3	6	8	7	9	3	
	うち留学生数	-	3	3	3	5	8	2
	うち自大学出身者数	-	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)
	うち他大学出身者数	-	3 (3)	5 (3)	7 (3)	7 (5)	8 (8)	3 (2)
	うち社会人学生数	-	0 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)
	うち女性数	-	2 (2)	1 (0)	3 (0)	2 (2)	6 (5)	2 (1)
③ ②の うち 履修 生数	-	3	6	8	7	8	3	
	うち留学生数	-	3	3	3	5	7	2
	うち自大学出身者数	-	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)
	うち他大学出身者数	-	3 (3)	5 (3)	7 (3)	7 (5)	7 (7)	3 (2)
	うち社会人学生数	-	0 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)
	うち女性数	-	2 (2)	1 (0)	3 (0)	2 (2)	5 (4)	2 (1)
プログラム合格倍率 (応募学生数/合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	-	1.67倍	1.17倍	1.13倍	1.14倍	1.00倍	1.00倍	
充足率 (合格者数/募集定員)	-	33%	67%	89%	78%	100%	33%	

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成31年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成31年度内に履修を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。

また、「有」の場合は、当該予定分については表中には含めず、備考欄へ募集時期及び募集予定人数を記入してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. プログラムの履修生数・修了(予定)者数
 ①区分制及び一貫制博士課程

該当なし

【公表(備考欄を除く)】
 (各年度3月31日現在(ただし平成31年度(2019年度)は提出日現在))

プログラムの履修生数等	履修生数 (選抜年度内辞退は除く。)					平成25年度 (H26.3.31)		平成26年度 (H27.3.31)		平成27年度 (H28.3.31)		平成28年度 (H29.3.31)		平成29年度 (H30.3.31)		平成30年度 (H31.3.31)		平成31年度 (2019年度)		H32.3.31 (2020)		見 込 計 (修了 見込 計)	辞 退 計 (辞 退 計)			
	M1 (D1)	M2 (D2)	D1 (D3)	D2 (D4)	D3 (D5)	計	修 了	辞 退	M1 (D1)	M2 (D2)	D1 (D3)	D2 (D4)	D3 (D5)	計	修 了	辞 退	M1 (D1)	M2 (D2)	D1 (D3)	D2 (D4)	D3 (D5)			計	修 了	辞 退
プログラムの履修生数等																										
平成25年度選抜																										
平成26年度選抜																										
平成27年度選抜																										
平成28年度選抜																										
平成29年度選抜																										
平成30年度選抜																										
平成31年度選抜																										
計																										
修了者数																										
うち就職者数																										
辞退者数																										
うち就職に伴う辞退者数																										
プログラム履修生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																										

※16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数」と整合性を取ってください。
 ※標準修業年限を超えて在学する者は、「D3(D5)」欄に計上してください。
 ※満期退学者は修了者には含めず、退学した時期の「辞退」欄に含めてください。満期退学者のうち退学後に学位取得した者(プログラムが修了者と認定する場合に限る。)については学位取得した時期の「修了」欄に記入し、該当者の経緯について備考欄に記載するとともに、右端の「辞退計」欄及び「修了計」欄は二重計上とならないよう「辞退計」から該当数を差し引いてください。
 ※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む。)のみをカウントしてください。また、満期退学後就職後に学位を取得した者はカウントしてください。なお、社会人学生の現職継続は含めなくてください。
 ※辞退者(Q.Eによるものも含む)や満期退学者がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】非感染性疾患(Non-Communicable Disease、以下NCD)は21世紀の健康問題の核心的課題である。国際連合の現事務局長も「NCDの克服こそが国際連合の使命」と位置付け、国連NCDサミットを開催するなど、各国政府関係者および学術機関との連携を図っている。NCDはがん、脳心血管疾患、およびその危険因子である糖尿病・高血圧・脂質異常症など生活習慣病の増加という形で顕在化し、アジア新興国において特に深刻な健康問題となっている。本プロジェクトは、アジア新興国における健康問題の解決と健康寿命の延伸を実現するためのリーダー育成を目指すプロジェクトである。

本学はこれまでわが国の生活習慣病疫学研究において中心的な役割を果たすとともに、国際共同疫学研究においても国内の他の研究機関の追随を許さない実績を持っている。さらに、平成25年4月に「アジア疫学研究センター」が大学内に設置されたことで、更なる研究・教育活動が開始されている。本プログラムはこれらの実績により長年蓄積された疫学研究フィールド、疫学データベース、疫学・生物統計学・生活習慣病医学分野での学内の人的資源、国内／国際共同研究・アジア提携校の人的ネットワーク、アジア疫学研究センターというハードウェアを最大限に活用して、NCD超克を中心課題とした大学院教育システムの再構築を行い、国内外の産学官の広い分野において活躍し、国際的センスをもつ「行動するトップリーダー」を養成することを目指すものである。

【特色】本プログラムは以下の5つの特色を持つ。

- ① アジア疫学研究センターを中核にすえた研究指導：
本学が有する多様かつ大規模な国内外のNCD疫学データベース、およびアジア疫学研究センターという研究施設を最大限に活用した大学院教育・研究指導を実施する。海外の共同研究者も加わった博士論文発表会などを通して、世界基準の学位審査を行う。
- ② 英語コミュニケーションを重視したカリキュラム：
国際的に著名な疫学研究者・生物統計家の雇用または短期間招聘により、教育・研究指導の国際化を図る。英語ディベートに代表される、論理的議論を英語のできる国際人を養成する。
- ③ 国際的センスをもつ「行動するトップリーダー」の育成：
欧米・アジアの提携校・研究機関・行政機関・健康関連企業における短期研修制度を設置、世界レベルの研究技法習得やアジア特有の健康課題発掘を行う。アジアの公衆衛生現場でのフィールドワークを通し、アジアのNCD対策リーダーとしての資質を養う。
- ④ 単科医科大学のもつ機動性を生かした教育体制：
医学系、看護系、人文系教員を動員・担当することで、目が行き届いた教育体制を構築できる。都会の喧噪から離れた環境を利用し、留学生と日本人学生とのグループワークなどを通じたホスピタリティあふれる人材育成が展開できる。
- ⑤ 経済面も含め修学に集中できる環境：
奨励金制度を設置してアジア新興国からの留学を奨励する。都市部にみられる生活費高騰がない地域性もあり、生活面の支援が充実している。

【優位性】本プログラムは以下の点で、国内の他大学の追随を許さない優位性を持っている。

- ① 国内唯一のNCD疫学専門の研究センター(アジア疫学研究センター)の研究資源を最大限活用することで、希有な研究のもとでの大学院教育が可能である。
- ② 2つの国民を代表する大規模生活習慣病疫学データベースを長期間管理しており、また、複数の国際共同疫学研究の拠点となっている研究機関は国内でもほとんどなく、これらの疫学データベースと国際的ネットワークを用いた大学院教育が可能である。
- ③ 国内疫学共同研究、国際疫学共同研究を通じた国内外の疫学研究者、生物統計専門家、生活習慣病医学研究者との多彩なネットワークがあるため、短期招聘、ワークショップ開催、短期留学などによる世界レベルの教育機会提供が可能である。
- ④ 臨床医学研究者と疫学研究者、さらに産業界・行政が連携した研究が活発に行われてきた実績があり、疫学、臨床医学、産業界、行政が緊密に連携した大学院教育が可能である。

プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

アジアNCD超克プロジェクト

日本およびアジア新興国からの優秀な人材の確保

医療従事者(医師・保健師・栄養士など)、保健・医療セクタの行政官・NGO、健康・医療関連企業

1年次

希望者に奨学金補助

学生寮提供などの生活支援

医学基礎知識の修養

NCD臨床クラスタ教員による非感染性疾患の成因、診断、治療、予防に関する英語を中心とする講義

疫学・生物統計学の修養

公衆衛生・医学統計・NCD疫学クラスタ教員による英語を中心とする講義・演習

少人数グループワーク

異なる国・地域からの学生のグループにより、異文化理解、コミュニケーションを目的としたグループワーク

2年次

研究計画の推敲

国際水準の博士論文をめざし、1年間かけて研究計画の推敲を指導教官とともに挙る。

海外研究機関短期研修

欧米およびアジアの大学・研究機関 (Pittsburgh, Hawaii, London, Northwestern, Sydney, Bangladesh, Vietnam等)での研究技法習得

Presentation and Debates

英語による発表技法を学ぶとともに、論理的な議論(ディベート)ができるような国際人を育てる

3,4年次

博士論文執筆

欧米一流雑誌3編の掲載を目標にして、それらをまとめた博士論文の作成をおこなう。

海外学会等での武者修行

国際学会発表で複数回経験、海外研究機関、行政機関、民間企業での研修などにより、現場経験を積む

アジア・フィールドワーク

本学のアジア提携校を基地としてアジアの公衆衛生現場に滞在し、研究テーマ探索と研究遂行

修了後

海外ネットワークを駆使した世界基準の学位審査による博士号取得

滋賀医大アジア疫学研究センターの共同研究と連動した学位論文審査

アジアNCD超克を共通の使命とする行動するリーダーをアジア諸国に輩出

大学・研究機関、行政機関・NGO、企業・医療機関、など

プログラムの成果

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成するという観点に照らし、学生や修了者の活躍状況を含め、アピールできる成果について記入してください。)

【全学を挙げた博士課程教育体制の確立】

学長を中心とし、副学長（プログラム責任者）を含む学内プログラム担当者 28 名、学外プログラム担当者 11 名（うち行政機関関連 1 名、海外教員 3 名、産業分野 2 名）を配備し、機動力を有する単科大学として、全学を挙げた学位プログラムを整備・確立した。

【グローバルに活躍する人材の育成】

本プログラムにこれまで在籍した学生は日本人 12 名、海外留学生 24 名（ベトナム、インドネシア、バングラデシュ、中国等、計 7 カ国）で、留学生と共に全ての講義・演習を英語で受講、QE および学位予備審査も英語で実施する中で、十分な英語力を有する人材を育成した。また、2 年生のインターンシップ（学外研究機関短期研修等）では、全学生のうち 85% が海外でのインターンシップを行い、3 年生のインターンシップ（アジアフィールドワーク）でも、全学生のうち 43% が海外でのインターンシップを行って、国際的に活躍する力を身につけた。

【世界レベルの研究力の醸成】

多くの学生が本学の実施する大規模疫学研究、国際共同研究である NIPPON DATA、SESSA、INTERMAP、滋賀県脳卒中登録等の研究に参画して論文執筆や学会発表を行った。これまでに学生が筆頭の学会発表は 34 件（国際学会 15 件、国内学会 19 件）、学生が筆頭の論文発表は英語 9 件、日本語は 3 件に達している。英文論文のインパクトファクターは平均 2.724 点となっており、世界レベルの研究力を身につけるに至っている。留学生 1 名がベトナム日本学術交換会議のベストポスター賞を受賞し、日本人学生 1 名がアメリカ心臓協会疫学予防部会の国際研究者賞を受賞した。

【健康関連産業や保健行政機関での現場力とネットワークの構築】

グラクソ・スミスクライン、オムロン、オムロンヘルスケア、イーライリリー、アムジェンアステラス、厚生労働省、WHO 神戸センター、医薬品医療機器総合機構、国立健康・栄養研究所、滋賀県保健所等との連携を行い、本プログラムを受講する全学生は講義受講、アジア・フィールドワークにおけるインターンシップの経験などを通して、現場力の向上とネットワーク構築を着実に実施した。特に、オムロン京阪奈イノベーションセンターでのビッグデータ解析、国立健康・栄養研究所での国民健康・栄養調査への参加、滋賀県保健所での研修など、大きな成果を挙げた。

【修了者のキャリアパスの実績】

本プログラムのこれまでの修了者は 5 名であり、留学生を含む 2 名はインターンシップ先を含む複数の民間企業への就職を目指して就職活動を行った。実績としての修了生の進路は、ケニア中央医学研究所(KEMRI)、インドネシア大学脳外科学講座、ホーチミン医科薬科大学公衆衛生学講座、ホーチミン医科薬科大学東洋内科学講座となった。

プログラムの成果

(大学院改革につながる教育研究組織の再編等の学内外への波及効果や課題の発見について記入してください。)

【学長のリーダーシップによる大学院改革の推進】

本学の第3期中期目標・中期計画では、本プログラムを活用して国際的に活躍できる研究者を育成することが明記されている。本プログラム実施を契機として、講義の英語化の拡大などによる大学院教育の国際化、QEを博士課程全体に波及させるなどの改革を行った。さらに、企業・行政等でのインターンシップを行う単位の創設、博士課程全体を対象としたリーダー教育講義を実施も検討することとした。

【本プログラムを継承する新コースの設置】

本学の博士課程は医学専攻のみの1専攻で、従来、「先端医学研究者コース」「高度医療人コース」「学際的医療人コース」の3コースを設置している。支援期間終了後、本プログラム(定員9名)を「NCD超克リーダーコース」(定員目安6名)として独立したコースとし、全4コースとすることとした。本プログラムのプログラム担当者は学内28名と全学的な教育体制であったが、新コースでもこの体制を継続する。

【新コースおよび博士課程全体の教育体制の強化】

学長のリーダーシップのもと大学全体で教員組織の教教分離を推進することになり、2019年度に教教分離ワーキンググループが設立された。本プログラムを継承する新コース設置のために、教育の中心となっている社会医学講座とアジア疫学研究センターの再編成により、アジア疫学研究センターに常勤教員ポスト配置を行って教育体制を強化することとした。また、教教分離の原則に従ってプログラム担当教員は講座の枠を越えて新コースに参画する計画である。人事に関しては、2019年度に人事委員会を新たに発足させて、教職員の評価基準の見直しや教員選考のあり方を検討することになった。また、大学全体としてIR室を発足させて、IR機能の強化を図っている。

【博士課程学生の学修環境整備と経済的支援】

優秀な留学生が学修研究に専念できるよう、2017年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に、本プログラムと既存の先端医学研究者コースのカリキュラムを融合させた「発展型アジア非感染性疾患(NCD)超克SUMS留学生プログラム」を申請し、採択された。このプログラムの採択により毎年度4名の国費留学生が優先配置されることとなった。また、関連企業等からの資金募集により、博士課程教育に活用する基金を創設することも検討を進めている。

【博士課程教育の継続的な改善】

現在、大学全体で教育組織の見直しを行っており、教育推進本部(Plan)、医学・看護学教育センター(Do)、教学活動評価委員会(Check)、教育推進本部(Action)のPDCAサイクルを回して、教育の継続的改善を図ることにしている。リーディングプログラムを継承する新コースを含め、博士課程教育全体についても継続して改善を図っていく体制を構築している。